

外から見た茨城、 中から見たいばらき

～'98新規採用職員～

★出席者★

西口 智雄 (企画調整課 主事)
 田原 瑞穂 (情報政策課 主事)
 小林 拓夫 (農政企画課 主事)
 高木 幸子 (都市整備課 技師)
 前川 直子 (公園街路課 技師)
 高橋 勝 (水戸土木事務所 技師)

H11.1.22

於:職員会館

司会：今回は、「外から見た茨城、中から見たいばらき」をテーマに皆さんに話し合っていたきたいと考えております。本日は、県外出身者の方を中心に、本年度の新規採用職員の中からお集まりいただいております。従いまして、外から見ていた時の茨城県のイメージと実際に住み始めて（茨城県民として）感じたことの違いや、茨城県庁職員として働き始める前に感じていたことと、実際に働き始めて（社会人として）感じたことの違いなどを中心に、自由にご発言いただきたいと思います。

外から見た茨城

司会：最初に、県外に住んでいた時の茨城県に対するイメージをお伺いしたいと思います。

西口：小学校以前に埼玉に住んでいたこともあり、近くの県だったものですから茨城に対するイ

メージは持ちやすかったです。距離的に「近い」という感じを持っていました。

自然が豊かで農産物が豊富に採れるということと、つくばで科学万博がありましたので科学技術に関する先進県というイメージがありました。

田原：私は高校3年生まで埼玉県に住んでおり、県庁所在地が水戸市ということ以外は茨城についてほとんど知りませんでした。子どもの頃、大洗に海水浴にきた時も、大洗は千葉県だと思っていました。

特に強い印象としては、大学の入寮の時、管理人の方に、なかなか言葉が通じなかったことです。（笑い）

隣の県なのになぜ通じないんだろうとびっくりしました。また、車がないと生活するのが不便だという印象を持っていました。

高木：茨城に来て最初に住んだのがつくばでした。それ以前に住んでいたところ（千葉県安房郡

三芳村（注）館山市の隣り）は非常に田舎だったので、つくばに住んで、特に不便を感じることはありませんでした。

房総にくらべ、茨城は距離のわりに東京への行き来が近く感じます。

高橋：私が「茨城」と聞いてまず思い浮かんだのは「納豆」でした。



高橋 勝

千葉県千葉市出身。
県に就職してから茨城県在住。

私の記憶が確かであるならば、茨城県を訪れたのは科学万博と筑波山登山の2回だけだと思います。

前川：私は高校生まで栃木県（宇都宮市）に住んでいました。茨城県といえば、幼い頃夏になると、両親が連れていってくれた河原子海岸です。

当時は茨城県に対して随分遠いイメージがあったのですが、自分で車を運転するようになると、約1時間半で海岸線まで行くことが分かり、非常に近いと感じています。今後、北関東自動車道が開通すれば、1時間もかからないで茨城まで来ることが出来るようになり、「茨城県のイメージ」、「栃木県のイメージ」と区別する必要がなくなる（地域間の差がなくなる）のではないのでしょうか。

司会：茨城県に生まれ、ずっと茨城県で育った小林さんはいかがですか。大学生の時は東京に住んでいたということですが、その時、外から茨城を見て感じたことなどをお願いいたします。

小林：大学時代の友人に、茨城県のイメージを聞くと、「茨城県」というイメージはほとんどなく、「水戸」とか「つくば」などがある所という程度の答えしか返ってきませんでした。

何回か実家（日立）に友達を泊り込みで招いた

ことがありましたが、その時に必ず言われることは、東京から非常に近く、2～3日ならば、飽きることなく自然と観光を満喫できるという感想が多かったです。

一方で、茨城県の人は荒い口調で話すことが多いようで、喧嘩をしているように思うみたいです。初めて訪れた人はカルチャーショックを受けるのではないのでしょうか。

中から見たいばらき

司会：それでは次に、実際に茨城県で生活してみた感想についてお伺いしたいと思います。

自然環境や生活環境について、また、県民性の違いなどについてお願いいたします。



小林 拓夫

地元茨城県出身。
大学生の時東京都に在住。

小林：私の場合は長く茨城に住んでいるのですが、小さい頃は特に不便は感じませんでした。行動範囲の広がる高校生ぐらいで、不便を感じるようになりまし

たが、大人になってしまえば、「車」という武器があるおかげで、特に不便は感じていません。

県民性については、「水戸っぼ」ということで一般的に言われるように、非常に気が短く荒っぼい県民性であると思います。このことは、職場内でも顕著で、他県からこられた方はきっとびっくりするのではないかと思います。

田原：私が現在住んでいるつくば市や土浦市は、東京に近い分、様々な面で東京に依存している部分が多く、都市としての発達が未熟な気がします。水戸市については、独自の個性を発揮していて、都市としては非常に雰囲気良く、便利であると



感じています。

自然環境につきましては、つくば市の例で言うと、公園とか歩道・自転車道などがきれいに、整備してある地区は非常に使いやすく便利に出来ていますが、少し都市から離れてしまうとまったくの未整備地区となってしまう、その落差が激しく全体として不便を感じています。

高橋：私が26年間住んでいた千葉県船橋市は比較的便利なところでしたので、茨城県の水戸市に住んでみて、少々不便さを感じています。ですから、洋服などの買い物は、未だに千葉県内に出掛けている。

茨城の場合は可住地面積が広いので、インフラなどの整備にムラが出てくるのは仕方のないことで、今後それぞれ目的別（都市、郊外別）にしっかり整備していく必要があるのではないかと思います。

司会：千葉県の都市部と農村部の差はいかがですか？

高木：私は農村部に住んでいたのですが、用事や買い物等、何かと都市部の方へ出て行く機会が結構あります。そういう中で、まちの景色の違いとか暮らしの利便性の差を感じていました。

逆に都市部に住む人達は、農村部に行く機会は少なく、例えば千葉の田舎のほうがどんな様子かあまり知らないし、地域差という実感も少ないと思うのですが、どうでしょうか？

高橋：そうですね。今の高木さんの話について



高木 幸子

千葉県三芳村出身。
大学生の時から茨城県在住。

は、茨城県でも同じことが言えると思います。

また、千葉県は、都市部と農村部の差がはっきりしており、都市部（県西）では公共交通機関が発達しているのに対して、農村部（県南）では茨城と似た感じで、車での生活を強いられます。

前川：栃木県も地域(特に県北と県南)によって差が有り、県北地方は比較的茨城に似た雰囲気があります。

自然環境については、千波湖のような大きな湖が都市景観の一部になっているなど、偕楽園を含めた千波湖の周辺は素晴らしいと思います。

現在街路事業に携わっていますが、水戸の場合は宇都宮に比べると幹線道路が少なく、少し横道にそれると細い道路になってしまうという状況になっており、車の運転など不自由を感じる事が多くなっています。もう少し幹線道路を格子状に発達させると、より住みやすい町になると思います。

県民性については、茨城はとても明朗な方が多いと思います。

西口：4月から水戸で生活をするようになったのですが、水戸には偕楽園や、県庁舎の裏の梅林に囲まれた弘道館、外観に歴史を感じさせる三の丸小学校などすばらしい建物などが沢山あり、このような建物の整備は今後大切であると感じています。

一方、医療、福祉関係は不便さを感じています。安心して生活出来るように、身近に質の高いサービスを提供する医療機関があると大変良いと思います。



前川 直子

栃木県宇都宮市出身。
大学生の時から茨城県在住。

茨城県職員(社会人)として働き始めて

司会：それでは、4月から今まで茨城県の職員として働き始めて感じたこと。例えば、仕事についての理想と現実のギャップや、仕事上で非常に嬉しかったこと、悔しかったことなどを中心にお願しいたします。

西口：私の場合は、県全体の施策に関わる仕事をしているので、非常に多くの知識を必要とし、仕事の大変さを感じると同時に、自分の住んでいる茨城には愛着を持っておりま



西口 智雄

沖縄県、埼玉県に在住経験有り。
小学5年生から茨城県在住

で、その茨城に関わる様々な仕事が出来ると言うことで、日々非常に充実しております。

働き始める前に想像していた事とのギャップについては、時間に追われて仕事をする事が多々あることです。もう少しじっくりと、一つ一つの事を積み重ねて仕事を進めていくイメージを持っていたのですが、実際には駆け足をしながら本を読むようなテンポで仕事をこなしています。

高橋：私は入庁する前に民間企業に勤務していた経験があるので、その職場との比較になってしましますが、民間と比べて仕事量が少ないと感じました。一方、仕事がとても簡略化されており、これについては、事務処理がし易く効率的であるという印象を受けました。また、書類が非常に多いと言う印象を受けましたので、文書量については、仕事の手続き同様に簡素化する必要があるのではないかと思います。

前川：私が茨城県の職員を目指したのは、大学の時海岸工学を専攻していたこともあり、その時からの関わりもあって、常陸那珂港の開港に立ち会いたいという思いからです。

県職員の方がどのような仕事をしているのかわからなかったのも、特別なイメージは無く、入庁後のギャップもありませんでした。

入庁後気づいた点として、情報のやり取りをスムーズに出来るようにすることが大切であると感じました。例えば、提出資料の「様式」などは、フロッピーディスクなどで事前に資料提出者に渡すなど、できるだけ無駄を省いて効率的に情報を伝達する必要があります。

また、都市計画の仕事については、すでに決定している都市計画を事業化するにあたって、その計画が、時代または住民のニーズに合ったものかを再確認するなど、柔軟に対応することが望ましいと思います。

高木：私は、まちづくりに関わる仕事、県民の顔が見える仕事が希望だったので、現在の仕事は希望していたものに近く、満足しています。本庁で仕事をしていると住民と接する機会が少なくなってしまうので、これからも出来るだけ住民のほうを向いて仕事ができるよう努めていきたいと思っています。

小林：現在、最終予算の事務処理の時期ですが、なぜ予算を余らすことを国(国補事業において)は嫌がるのでしょうか。「全部使い切ってもらわないと困る」というのは、今の時代では理不尽に思えてなりません。

私の担当している農業構造改善事業(国補事業)は、画一的に補助率1/2となっていますが、地域の実情や補助対象メニューに応じ様々な補助率があっても良いし、余った予算については、使い



切るのではなく効果的な利用方法で対処するなど、臨機応変に対応できる体制を新たに創る必要があると思います。

田原：県職員と言っても、現在の仕事はあまり県民の方と接する機会がなく、時々セミナー等で市町村の職員の方などにお会いするくらいで、普段は黙々と県のホームページ関係の仕事に取り組んでいます。ですから、私がイメージしていた公務員の仕事とは全く違うような気がします。



田原 瑞穂

埼玉県大宮市出身。
大学生の時から茨城県在住。

これからは、県職員として働いていく上で勉強になるような仕事（例えば法律を扱うようなセクション）にも携わっていきたいと考えています。

今後の茨城県にとって必要なこと、 自分自身にとって必要なこと

司会：最後に、今後茨城県全体に必要なこと、更には県職員として自分自身にとって必要なことをお伺いしたいと思います。

高橋：今朝、テレビニュースで千葉県のある自治体がISO14001を認証取得したと言うことを見たのですが、今後茨城県も地球にやさしい行政を心がけて仕事に取り組んで行くことが望ましいのではないかと思います。

また、県職員の方は個人的に資格を持っている方が少ないようなので、仕事に生かせるような資格を取得することも必要になってくると思います。

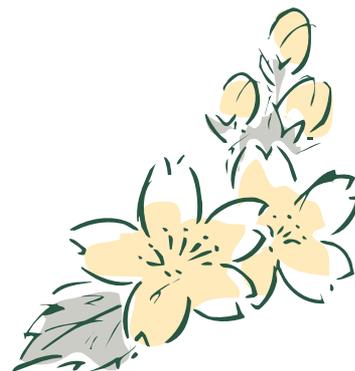
担当する仕事も、機械的にこなすのではなく、疑問点の解消や改善点などを考えるようにして仕事を進めていきたいと考えています。

小林：今後、行政の仕事においてもその「費用対効果」を図る必要があると感じています。すべての事業で「効果」を測るのは難しいと思いますが、「効果」を測ることでその事業の問題点や改善点が見つかるのではないかと思います。問題点や改善点が見つかれば次にその事業を今後どのようにすべきかという新たな方向性が見えてくると思います。

高木：これからは今までのような開発志向ではなく、もっと身近なところに着目したまちづくりに取り組まなければならないと感じています。ものすごい「モノ」でなくてよくて、「結構いいよ」ぐらいの気持ちが大事かと思っています。

県民皆が「茨城県は、結構いいよ！」とか、自分が住んでいる地域に対しても「私のまちは、結構いいよ」と思えたら良いですね。そうしたいです。

話は変わりますが、茨城県の職員として、2002年サッカーワールドカップの開催にとっても期待しています。地域活性化の良い起爆剤になるのではないのでしょうか。（また、できれば私もワールド



カップに関連した業務に携わりたいと思っています。密かな希望ですけど...)

前川：県の仕事の中で、外の課からの調査・照会の依頼については、県全体で各課の持っているデータをデータベース化して、必要な人が必要な時に照会できるようにすれば、無駄な作業を大幅に削減できるのではないかと思います。

また、現在首都機能移転の候補地の選定等が行われていますが、仮に茨城に決まれば、「日本の首都機能の一部」が茨城県にくるわけですから、そのようなことも考えて茨城県の将来を考えていかなければいけないと思います。

田原：私も高橋さんが言われたように、資格を取得することは良いことだと思います。仕事のやる気を起こさせる意味でも、自分を磨く意味でも、良いことだと思います。

また、県の政策はあまり一般の県民に知られていないので、もっと県の政策を県民に周知する努

力が必要であると思います。

西口：私自身については、まず「茨城」について、誰よりも詳しくなれるように勉強する必要があります。と思っています。

また、これから茨城県に求められることと言いますと、少子高齢社会に向けた体制づくりが重要になってくるのではないかと思います。重点的に少子高齢社会に向けた環境整備を推進する必要があります。県に入る時に福祉の仕事に携わりたいという希望を持っていましたので、私なりに強く感じていることです。

また、一度社会人として外から茨城を客観的に見てみたいという希望がありますので、庁内公募制度などを利用して違った角度から茨城について勉強したいと考えています。

司会：本日は長時間にわたりありがとうございました。貴重なご意見を伺うことができ、大変有意義でした。



座談会風景

